

分野	専門基礎分野	科目名 単位(時間)	形態機能学 I 2 単位 (60 時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	河野 史 元佐賀大学医学部 教授 小川 喜久恵 嬉野医療センター 診療看護師 南川 栄子 嬉野医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 剣持 葉子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 14 年 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 10 年						
授業概要	2～21 については、主にテキストの以下①～⑤の項目に沿って講義を行なう。①細胞と組織 ②骨格系 ③筋系 ④神経系 ⑤感覚器系 22～29 については、看護の視点で形態機能学を学ぶ。						
科目目標	1. 疾病の理解、フィジカルアセスメント、看護診断・技術など看護学の基礎となる人体の構造と機能について、正常な人体がどのような細胞・組織・器官により構成され、これらがどのような機能と対応しているかを系統的かつ局所的に学修する 2. 人体の構造とそれが関与する機能は一体化しているため、看護学の教育においては構造(解剖学)と機能(生理学)を融合させながら、骨格模型を用い学修する 3. 形態機能学 I (第 2 回から第 21 回) では、おもに運動に関わる生体の構造と機能についての知識を身につける 4. 生活行動を形態機能学的に理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 2. 看護形態機能学 日本看護協会出版会 (22～29 回講義時に使用)						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、メディカ出版						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	看護をする上で必ず必要となる基礎知識である。人間が動くとき、見るとき、聞くときにどの臓器が機能しているか、自分の身体をイメージしてほしい。人体のすばらしさを感じてもらいたい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 人体の構造と機能を学ぶ意義				講義	元佐賀大学 医学部 教授 河野 史	
2	2. 人体の構成 細胞の構造・機能						
3	3. 組織						
4	4. 臓器の大きさ						
5							
6							
7	5. 運動系の構造と機能 (骨)						
8							
9	6. 運動系の構造と機能 (筋)						
10							

11	7. 神経系の構造と機能（概要）		
12	8. 神経系の構造と機能（骨髄、脳幹、小脳、間脳）		
13	9. 神経系の構造と機能（脳神経）		
14	10. 神経系の構造と機能（終脳，高次機能，本能行動，精神疾患）		
15	11. 神経系の構造と機能（下行性伝導路、脊髄神経）		
16	12. 神経系の構造と機能（疼痛，上行性伝導路）		
17	13. 自律神経，脳室と髄膜		
18	14. 筋収縮に関わる神経		
19	15. 感覚器（視覚）		
20	16. 感覚器（聴覚，平衡覚，味覚，嗅覚，皮膚）		
21			
22	17. 動く	講義	専任教員 劔持 葉子
23			
24	18. 食べる	講義	専任教員 岩谷 望美
25			
26	19. 排泄する	講義	専任教員 岩谷 望美
27	20. 息をする	講義	診療看護師 小川 喜久恵
28	21. 循環・体温		
29	22. 皮膚と附属物と粘膜の構造と機能	講義	皮膚排泄ケア認定看護師 南川 栄子
30	終講試験	試験（評価）	単位認定者 河野 史

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	形態機能学Ⅱ 2単位（60時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 前期
講師名 所属	河野 史 元佐賀大学医学部 教授						
授業概要	主にテキストの以下①～⑨の項目に沿って講義・実験を行なう。 ①消化器系 ②呼吸器系 ③血液 ④免疫系 ⑤熱産生 ⑥脈管系 ⑦内分泌系 ⑧泌尿器系 ⑨生殖器系						
科目目標	1. 疾病の理解、フィジカルアセスメント、看護診断・技術など看護学・医療の基礎となる人体の構造と機能について、正常な人体がどのような細胞・組織・器官により構成され、これらがどのような機能と対応しているかを系統的かつ局所的に学修する 2. 人体の構造とそれが関与する機能は一体化しているため、看護学の教育においては構造（解剖学）と機能（生理学）を融合させながら、人体の機能を理解するための実験、顕微鏡像の観察も通して修得する 3. 形態機能学Ⅱでは、おもに生命の維持に関わる内臓の構造と仕組みについての知識を身につける						
テキスト	1. 系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、医学書院						
参考文献	1. ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学、メディカ出版						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	この科目の学習は看護をする上で必ず必要となる基礎知識である。自分の身体をイメージしながら受講してほしい。講義を受けることで人体のすばらしさを感じてほしい。						
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 消化器系 1（口腔～嚥下）			講義		元佐賀大学 医学部 教授 河野 史	
2	2. 消化器系 2（食道～大腸）			講義			
3	3. 消化器系 3（消化運動，消化・吸収，肝・膵・胆，腹膜）			講義			
4	4. 三大栄養素の消化吸収			講義			
5	5. 呼吸器系 1（鼻腔～縦隔）			講義			
6	6. 呼吸器系 2（呼吸メカ，肺活量，ガス交換）			講義			
7	7. 呼吸器系 3（呼吸ガス，呼吸中枢，異常）			講義			
8	8. 肺の拡張実験			講義			
9	9. 血液 1（血液，赤血球）			講義			
10	10. 血液 2（白血球，血小板，血漿タンパク）			講義			
11	11. 免疫の基礎			講義			
12	12. 熱産生			講義			

13	13. 脈管系 1 (心臓, 刺激伝導系)	講義		
14	14. 脈管系 2 (心電図, 心音)	講義		
15	15. 脈管系 3 (全身の血管, 門脈, 胎児循環)	講義		
16	16. 門脈が肝臓に流れ込む意義	講義		
17	17. 脈管系 4 (血圧, 微小循環)	講義		
18	18. 浮腫	講義		
19	19. コロトコフ音	演習		
20	20. 内分泌系 1 (概論, 下垂体)	講義		
21	21. 内分泌系 2 (内分泌腺)	講義		
22	22. 泌尿器系 1 (腎, 濾過・再吸収, 旁装置)	講義		
23	23. 泌尿器系 2 (ホルモンの影響, クリアランス, 膀胱, 排尿反射, 性状)	講義		
24	24. 泌尿器系 3 (体液, 水分出納, 電解質, 酸塩基平衡)	講義		
25	25. 血圧調節機構	講義		
26	26. 生殖器系 1	講義		
27	27. 生殖器系 2	講義		
28	28. 初期発生, 視床下部-前葉-卵巣-子宮の関連性	講義		
29	29. 生命の維持に関わる内臓の構造と仕組み 顕微鏡像の観察	講義・演習		
30	終講試験	試験 (評価)		単位認定者 河野 史

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	生化学 1単位(15時間)	授業 形態	講義	開講 時期	1年 前期
講師名 所属	河部 庸次郎 嬉野医療センター 名誉院長 医師						
授業概要	代謝の概略を説明し、生化学を学ぶ意識づけをはかる。その後、それぞれの代謝について学習していき関連づけて学ぶ。講義内容3については、解剖学・生理学で既習している細胞の構造と性質を想起させながら、各栄養素の構造と性質について学ぶ。ここでの学びは栄養学の基礎知識となる。						
科目目標	1. 人体を構成している物質の構造や性質を理解できる 2. 人体の体内における代謝とその役割を理解できる						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学、医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	高校で学ぶ化学の知識が関連してきます。栄養が細胞に吸収される過程を学ぶことで人間の身体のすばらしさを感じてもらいたい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 代謝とは 2. 物質代謝とエネルギー 3. 生命維持に必要な栄養素の構造と性質				講義	河部 庸次郎	
2	4. 糖質代謝						
3	5. 脂質代謝						
4	6. 核酸・ヌクレオチド代謝 7. 遺伝情報						
5	8. 代謝と疾患 9. 酵素とは						
6	10. タンパク質とアミノ酸代謝						
7	11. ビタミンの構造と性質						
8	終講試験				試験（評価）	単位認定者 河部 庸次郎	

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	病理学 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名	内藤 慎二 嬉野医療センター 臨床検査科医師						
所属	田場 充 嬉野医療センター 臨床検査科医師						
授業概要	病理学では、臓器の違いをこえて共通にみられる病気について、原因や病気の成り立ちを学ぶ。また、病気によって形態や生理機能に異常な変化が生じることで起こる病的な状態について病態と疾患の関連として学ぶ。細胞免疫系の働きと調節については形態機能学Ⅰ・Ⅱ、生化学、感染管理で教授している内容を想起する。						
科目目標	1. 病気の成り立ち（病因）と身体内での病的変化が理解できる 2. 疾病・病態と症状・徴候の関係と規則性について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕病理学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	形態機能学Ⅰ・Ⅱで学習する人体の構造と機能の授業、感染管理と並行しながら授業が進行する。正常な機能の何が変化するかを考えながら受講してもらいたい。病理学で学ぶ病気の成り立ちやそれに伴い生じる症状の理解は臨床推論の基礎知識となる。さらに基礎看護学で学ぶ症状緩和の看護の基礎知識となる。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 看護と病理学 1) 病気とは 2. 正常と異常				講義	医師 内藤 慎二	
2	3. 内分泌機能と循環機能障害の基礎				講義	医師 内藤 慎二	
3	4. 細胞・組織の損傷と修復				講義	医師 内藤 慎二	
4	5. 先天異常と遺伝子異常 1) 遺伝の生物学 2) 先天異常 3) 遺伝子の異常と疾患				講義	医師 内藤 慎二	
5	6. 循環障害（血行障害） 1) 循環系の概要 2) 浮腫 3) 出血と止血 4) 血栓症				講義	医師 内藤 慎二	
6	7. 炎症と免疫				講義	医師 内藤 慎二	
7	8. 代謝障害 1) 脂質代謝障害 2) タンパク質代謝障害				講義	医師 田場 充	
8	8. 代謝障害 3) 糖質代謝異常 4) その他の代謝障害				講義	医師 田場 充	

9	9. 老化と死 1) 老化と老年症候群	講義	医師 田場 充
10	9. 老化と死 2) 老化のメカニズムと細胞・組織・臓器の変化	講義	医師 田場 充
11	10. 腫瘍 1) 腫瘍の定義と分類 2) 腫瘍の発生機序	講義	医師 田場 充
12	10. 腫瘍 3) 腫瘍の診断と治療	講義	医師 田場 充
13	11. 病態と疾病の関連 1) ショック	講義	医師 田場 充
14	11. 病態と疾病の関連 2) 電解質異常	講義	医師 田場 充
15	11. 病態と疾病の関連 3) 炎症・免疫	講義	医師 田場 充
	終講試験	試験(評価)	単位認定者 内藤 慎二

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	疾病論 I 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名	中富 克己 嬉野医療センター 呼吸器内科医師						
所属	下村 光洋 嬉野医療センター 循環器内科医師						
授業概要	呼吸器機能障害、循環器機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。						
科目目標	生命維持機能である呼吸・循環機能障害がおこる疾患の病態、症状、検査及び内科的治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔2〕呼吸器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学〔3〕循環器 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、病理学で学習する人体の構造と機能、病気の成り立ちと症状の関連について事前に復習し受講してほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 呼吸器機能障害におこりやすい症状と病態生理 1) 咳嗽と喀痰 2) 血痰、喀血と吐血 3) 胸痛（胸壁由来） 4) チアノーゼ				講義	呼吸器内科医師 中富 克己	
2	1. 呼吸器機能障害におこりやすい症状と病態生理 5) 呼吸異常 6) 呼吸困難 7) いびき 8) 意識障害（CO ₂ ナルコーシス、過換気）						
3	2. 呼吸機能障害の検査・診断 1) 診察（問診～聴診）時のアセスメント						
4	2. 呼吸機能障害の検査・診断 2) 検査の種類とアセスメント 3) 診断の流れ						
5	3. 呼吸機能障害がおこる疾患と治療 1) 肺炎 2) 気管支拡張症				講義	呼吸器内科医師 中富 克己	
6	3. 呼吸機能障害がおこる疾患と治療 3) 気管支喘息 4) 慢性閉塞性肺疾患						
7	3. 呼吸機能障害がおこる疾患と治療 5) 呼吸不全						
8	3. 呼吸機能障害がおこる疾患と治療 6) 肺がん						
9	4. 循環器機能障害でおこりやすい症状と病態生理 1) 呼吸困難 2) 胸痛 3) 動悸 4) 失神・めまい				講義	循環器内科医師 下村 光洋	

	5) 間欠性跛行 6) チアノーゼ 7) 浮腫 8) ショック		
10	5. 循環機能障害の検査・診断 1) 診断時のアセスメントと循環器症状の診断 2) 検査の種類とアセスメント 3) 診断の流れ		
11	6. 循環機能障害がおこる疾患と治療 1) 血圧異常		
12	6. 循環機能障害がおこる疾患と治療 2) 心不全 3) 心筋疾患		
13	6. 循環機能障害がおこる疾患と治療 4) 弁の異常 5) 先天性心疾患		
14	5. 循環機能障害がおこる疾患と治療 6) 血管異常性疾患 7) 虚血性心疾患		
15	5. 循環機能障害がおこる疾患と治療 8) 不整脈		
	終講試験	試験（評価）	単位認定者 中富 克己

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	疾病論Ⅱ 1単位（30時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	院内講師 院内講師 院内講師 院内講師	嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター 嬉野医療センター	消化器内科医師 糖尿病・内分泌内科医師 リウマチ科医師 歯科口腔外科医師				
授業概要	咀嚼・消化・吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、代謝機能障害、免疫機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。消化・吸収機能障害により生じる疾患については内視鏡による治療について学ぶ。						
科目目標	咀嚼・消化・吸収機能障害、内分泌・代謝機能障害、免疫機能がおこる疾患と特徴と治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 4. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症 医学書院 5. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[15] 歯・口腔 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、病理学で学習する人体の構造と機能、病気の成り立ちと症状の関連について事前に復習し受講してほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 消化・吸収機能障害におこりやすい症状と病態生理				講義	消化器内科医師	
2	2. 消化・吸収機能障害の検査・診断						
3	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 1) 食道の疾患と内科的治療						
4	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 2) 胃・十二指腸の疾患と内科的治療						
5	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 3) 腸および腹膜疾患と内科的治療						
6	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 4) 肝臓・胆嚢の疾患と内科的治療						
7	3. 消化・吸収機能障害の疾患と内科的治療 5) 膵臓の疾患と内科的治療						
8	4. 内分泌系におこりやすい症状とその病態生理				講義	糖尿病・内分泌	

9	5. 内分泌・代謝機能障害の検査・診断		内科医師
10	6. 内分泌機能障害の疾患と内科的治療 1) 視床下部一下垂体前葉系疾患 2) 視床下部一下垂体後葉系疾患 3) 甲状腺疾患 4) 副甲状腺疾患 5) 副腎疾患 6) 消化管ホルモン産生腫瘍 7) 多発性内分泌腫瘍症		
11	7. 代謝機能障害の疾患と内科的治療 1) 糖尿病 2) 脂質異常症		糖尿病・内分泌 内科医師
12	7. 代謝機能障害の疾患と内科的治療 3) 肥満症とメタボリックシンドローム 4) 尿酸代謝異常	講義	
13	8. 免疫機能障害の疾患と治療 1) 膠原病 (1) 全身エリテマトーデス (2) 慢性関節リウマチ (3) 強皮症 (4) シェーグレン症候群	講義	リウマチ科医師
14	9. 歯・口腔におこりやすい症状とその病態生理 1) 疼痛 2) 出血 3) 開口障害 4) 咀嚼・嚥下障害 5) 口臭 6) 口腔乾燥 7) 味覚障害	講義	歯科口腔外科医 師
15	10. 歯・口腔機能障害の検査・診断 11. 疾患と治療		
	終講試験	試験(評価)	単位認定者

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	疾病論Ⅲ 1単位（30時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 整形外科医師 院内講師 嬉野医療センター 泌尿器科医師 院内講師 嬉野医療センター 腎臓内科医師 院内講師 嬉野医療センター 耳鼻咽喉科医師						
授業概要	運動器系、腎・泌尿器系・耳鼻咽喉系の機能障害により生じる疾患について、病態と症状、疾患を診断するための検査、疾患の治療について学ぶ。						
科目目標	1. 運動・排泄機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる 2. 感覚機能障害がおこる疾患の特徴と治療について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 3. 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[14] 耳鼻咽喉 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱ、病理学で学習する人体の構造と機能、病気の成り立ちと症状の関連について事前に復習し受講してほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 運動器系におこりやすい症状とその病態生理 1) 関節異常				講義	整形外科医師	
2	1. 運動器系におこりやすい症状とその病態生理 2) 四肢変形						
3	1. 運動器系におこりやすい症状とその病態生理 3) 運動障害・知覚障害						
4	2. 運動器系の検査と診断						
5	3. 運動機能障害がおこる疾患と治療 1) 骨関節の異常						
6	3. 運動機能障害がおこる疾患と治療 2) 神経損傷						
7	3. 運動機能障害がおこる疾患と治療 3) 炎症性疾患 4) 腫瘍性疾患の種類と特徴						
8	4. 腎・泌尿器系におこりやすい症状とその病態生理 1) 血尿・たんぱく尿 2) 排尿障害				講義	泌尿器科医師	

9	4. 腎・泌尿器系におこりやすい症状とその病態生理 3) 排尿痛・残尿感 4) 失禁		
10	5. 泌尿器系の検査と診断	講義	泌尿器科医師
11	6. 排尿障害がおこる疾患と治療 1) 前立腺肥大症 2) 炎症性疾患 3) 腫瘍性疾患		
12	7. 腎機能の検査と診断 8. 腎機能障害がおこる疾患と治療 1) 炎症性疾患 2) 腎機能障害	講義	腎臓内科医師
13	8. 腎機能障害がおこる疾患と治療 3) 高血圧と腎障害	講義	
14	9. 耳鼻咽喉系におこりやすい症状とその病態生理 10. 耳鼻咽喉系の検査と診断	講義	耳鼻咽喉科医師
15	11. 耳鼻咽喉系の主な疾患と治療		
	終講試験	試験(評価)	単位認定者

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	治療論 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 外科医師 院内講師 嬉野医療センター 麻酔科医師 院内講師 嬉野医療センター 放射線科医師 院内講師 嬉野医療センター 臨床工学技士 内藤 慎二 嬉野医療センター 臨床検査科医師 井手 千佳子 嬉野医療センター がん化学療法看護認定看護師						
授業概要	この科目では、医学における主な治療法の基礎知識を学ぶ科目である。具体的には手術療法、放射線療法、薬物療法の中でも化学療法について学ぶ。その他の薬物療法については臨床薬理学の科目で学ぶ。運動療法はリハビリテーションの科目で学び、栄養食事療法は栄養学の科目で学ぶ。また、絶え間なく進歩する治療法について移植と再生医療として学ぶ。さらに、治療に用いられる医療機器の原理や取り扱いについて学ぶ。授業は主にテキストに沿って進める。ここでの学修が専門分野における看護を学ぶ科目に関連する。						
科目目標	1. 術療法の適応や身体侵襲と生体反応を理解できる 2. 麻酔の種類と目的による身体への影響や効果を理解できる 3. 放射線療法の目的および原則を理解できる 4. 化学療法の目的および留意点を理解できる 5. 医療機器の原理を理解し、医療機器の安全な使用と留意点が理解できる 6. 移植と再生医療について理解し、治療の発展と展望を理解できる						
テキスト	1. 新体系 看護学全書 別巻 臨床外科総論 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[4] 臨床看護総論 医学書院 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔1〕 病理学 医学書院 4. 系統看護学講座 別巻 がん看護学 医学書院 5. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院						
参考文献	1. 系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 医学書院						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	主な治療法の基礎知識を修得することにより、治療を受ける患者にとっての治療の目的と身体への影響を推測し科学的根拠に基づいた看護につなげてほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師
1	1. 手術療法の目的と意義 2. 術前診察と検査 3. 外科的手術手技 4. 低侵襲手術				講義		外科医師

2	5. 手術侵襲と生体の反応	講義	
3	6. 麻酔の種類と特徴	講義	麻酔科医師
4	7. 術前管理 8. 術中管理	講義	
5	9. 術後管理	講義	
6	10. 緩和医療	講義	
7	11. 放射線療法とは 12. 放射線療法の目的 13. 放射線療法の適応 14. 放射線療法の種類と特徴	講義	
8	15. 放射線療法の進め方 16. 放射線障害と放射線防護	講義	
9	17. 化学療法の目的 18. 化学療法の特徴 19. 化学療法の原理	講義	がん化学療法看護認定看護師 井手 千佳子
10	20. 化学療法の副作用 21. 抗がん剤暴露からの防護	講義	
11	22. 医療機器の原理と実際	講義・演習	臨床工学技士
12	1) 心電図モニター 2) 人工呼吸器		
13	3) 輸液ポンプ、シリンジポンプ		
14	4) 低圧持続吸引器 5) Aライン 6) 自動式体外除細動器 (AED)		
15	8. 移植と再生医療	講義	臨床検査科医師
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者

分野	専門基礎分野	科目名 単位(時間)	臨床推論の基礎 1単位(15時間)	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1年 後期
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 診療放射線技師 院内講師 嬉野医療センター 臨床検査技師 黒木 和哉 嬉野医療センター 総合診療科医師 馬場 亜希子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師18年						
授業概要	臨床判断能力の基盤となる思考の強化をめざし、疾病の診断につながる臨床推論の思考を学ぶ。疾病の診断や治療方針を決定するためには、臨床検査や放射線画像による結果を解釈し、患者に生じている症状と照らし合わせながら患者に生じている現象を意味づけていくことが必要である。講義では臨床推論の基礎として、臨床推論に必要な臨床検査と放射線検査の種類と検査結果の解釈を学ぶ。また、臨床推論とは何か、臨床推論の種類を学び、患者に生じている現象から診断に至る臨床推論の実際について事例を通して学ぶ。						
科目目標	1. 検査や画像による診断の実際を理解できる 2. 事例を通して患者の病態を理解し、診断に至る過程を体験することで臨床推論を理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 2. 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 3. 系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院						
参考文献	1. 看護過程に沿った対症看護、学研メディカル秀潤社 2. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕 病態生理学 医学書院 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 4. ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 5. 治療薬マニュアル、医学書院 6. 検査値ガイドブック、サイオ出版						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照 筆記 <input type="radio"/> レポート <input type="radio"/> 口頭試問 <input type="radio"/> 授業態度・出席状況 <input type="radio"/>						
学修に向けたメッセージ	ここで学ぶ臨床推論は看護実践に不可欠なものである。臨床看護総論演習Ⅰ、看護過程の科目では対象に起こっている病態による影響を考える際に用いられる。看護の対象に起こっている現象に関心を持ち、原因や誘因について自らが調べ考える態度を身につけてほしい。						
授業計画							
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師	
1	1. 臨床検査の基礎 1) 臨床検査とその役割 2) 臨床検査の流れ 2. 主な臨床検査 1) 一般検査 2) 血液学的検査 3) 化学検査			講義		臨床検査技師	

	4) 免疫・血清学的検査 5) 内分泌学的検査 6) 微生物学的検査 7) 病理学的検査		
2	2. 主な臨床検査 8) 生体検査 3. 検査結果の解釈 1) 赤血球数の検査結果と解釈 2) 血清タンパク質の検査結果と解釈		
3	4. 画像診断の種類 1) X線、CT、MRI、超音波検査 2) 核医学検査 3) IVR	講義	診療放射線技師
4	5. 画像診断の種類と検査の実際 1) X線、CT、MRI、超音波検査診断		
5	6. 疾病の診断の実際 1) 臨床推論とは 2) 臨床推論の種類	講義	医師 黒木 和哉
6	7. 臨床推論を用いた症状や病態の診断過程	講義・演習	専任教員 馬場 亜希子
7			
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 馬場 亜希子

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	臨床薬理学 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	木寺 健司 木寺メディカルサービス合同会社代表 薬剤師						
授業概要	薬物療法の基礎知識について主に講義で学ぶ。臨床薬理学での学びは基礎看護学で学ぶ与薬の技術の基礎知識となる。						
科目目標	1. 臨床に即した安全で有効な薬物治療の実践を目指し、薬物療法の基本を理解できる 2. 薬物の効き方や副作用の出方を生体全体の反応として臨床的に捉えられる基本的な知識・態度を習得できる						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	形態機能学Ⅰ、形態機能学Ⅱで学習した人体構造と機能を想起し、薬物がどのように作用するかを理解してほしい。臨床薬理学での学びを踏まえて診療援助技術で与薬について学習をしてほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 薬理学の基礎知識 2. 抗アレルギー薬・抗炎症薬 3. 末梢での神経活動に作用する薬物 4. 中枢神経系に作用する薬物 5. 循環器系に作用する薬物 6. 呼吸器・消化器・生殖器系に作用する薬物 7. 物質代謝に作用する薬物 8. 抗感染症薬 9. 抗がん薬、免疫治療薬 10. 皮膚科用薬・眼科用薬 11. 救急の際に使用される薬物 12. 漢方薬				講義	薬剤師 木寺 健司	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15	13. 服薬指導 終講試験				講義 試験（評価）	単位認定者 木寺 健司	

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	感染管理 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	院内講師 嬉野医療センター 呼吸器内科医師 院内講師 嬉野医療センター 臨床検査技師 重松 孝誠 嬉野医療センター 感染管理認定看護師						
授業概要	微生物は人間の生活と密接にかかわっており、環境を豊かにしたり食を豊かにしたりするためになくてはならないパートナーである。一方で微生物には病気をおこすものも存在する。感染管理では、感染症を引き起こす要因となる微生物の種類や特徴を学び、感染症の理解を深める。また、感染症予防のための対策について学ぶ。						
科目目標	1. 感染症の要因となる微生物の種類、特徴を学び、病原微生物の特徴と感染症について理解できる 2. 院内感染の発生要因、院内感染予防対策について理解できる						
テキスト	1. 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4]微生物学 医学書院 2. 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]基礎看護技術 I 医学書院 3. 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	感染を予防することは患者の安全だけでなく、自分の安全を守ることである。感染管理での学びは看護実践をする上で必要な清潔・不潔の概念につながっている。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 微生物と私たちの生活				講義	医師	
2	2. 微生物と人の病気						
3	3. 細菌感染の基礎				講義	臨床検査技師	
4	4. 真菌・ウイルス感染の基礎						
5	5. 感染症と発症				講義	医師 佐々木 英祐	
6	6. 細菌感染の予防と治療						
7	7. 免疫						
8	8. 病原微生物の特徴と感染症 1) 細菌感染症				講義	臨床検査技師	
9	8. 病原微生物の特徴と感染症 2) 真菌感染症						
10	8. 病原微生物の特徴と感染症 3) ウイルス感染症						
11	8. 病原微生物の特徴と感染症 4) 原虫・寄生虫感染症						

12	<p>9. 院内感染とは</p> <p>1) 院内感染の定義</p> <p>2) 日和見感染症とは</p> <p>3) 院内感染症の発生要因</p>	講義	<p>感染管理認定看護師</p> <p>重松 孝誠</p>
13	<p>10. 院内感染予防対策について</p> <p>1) 感染に対する患者への対策（演習）</p> <p>2) 感染経路の対策</p> <p>3) 感染源自体への対策</p> <p>11. 院内感染対策の実際</p> <p>1) 院内感染対策の組織について</p> <p>2) 院内感染対策の役割と活動内容</p>	講義・演習	<p>感染管理認定看護師</p> <p>重松 孝誠</p>
14	<p>12. 変貌する感染症と対策</p> <p>1) MRSA 2) VRE 3) 緑膿菌 4) 多剤耐性結核菌</p> <p>5) O157 と HUS</p>	講義	<p>感染管理認定看護師</p> <p>重松 孝誠</p>
15	<p>12. 変貌する感染症と対策</p> <p>6) C 型肝炎ウイルス 7) HIV 8) MARS 9) 結核</p> <p>10) エボラ出血熱 11) ジカ熱</p> <p>12) 新型コロナウイルス感染症</p>	講義	<p>感染管理認定看護師</p> <p>重松 孝誠</p>
	終講試験	試験（評価）	単位認定者

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	栄養学 1 単位（30 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期
講師名 所属	飛奈 卓郎 長崎県立大学看護栄養学部 准教授 院内講師 嬉野医療センター 管理栄養士 院内講師 嬉野医療センター 薬剤師						
授業概要	看護領域の専門家を目指す学生が、栄養素の体内での機能や代謝について学び、栄養と生体の関わりを理解することで、種々の疾病に対して適切な食事指導ができるようになることを目的とする。そのため、栄養と生体の関わりを中心に人間にとっての食・栄養の意義、エネルギー代謝、食事栄養療法の基礎的知識と他職種との連携による NST 活動とその意義について学ぶ。非経口的な栄養摂取について薬剤師よりその組成について学ぶ。						
科目目標	1. 人間にとっての栄養の意義及び栄養素の種類とはたらきを理解できる 2. NST(栄養のサポートチーム)の活動とその意義、看護師の役割について理解できる						
テキスト	系統別看護学講座 専門基礎分野 人体の機能と構造[3]栄養学 医学書院						
参考文献	講義中に適宜紹介する						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート		口頭試問	授業態度・出席状況	
学修に向けたメッセージ	生活環境学、形態機能学Ⅱ、生化学での学習を想起し学んでほしい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法	担当講師	
1	1. 栄養とは 2. 看護における栄養学を学ぶ意義				講義	長崎県立大学 准教授 飛奈 卓郎	
2	3. 栄養素の種類と働き 1) 糖質と健康 2) 糖質の種類と働き 3) タンパク質と健康 4) タンパク質の種類と働き						
3	3. 栄養素の種類と働き 5) 脂質と健康 6) 脂質の種類と働き						
4	3. 栄養素の種類と働き 7) ビタミンと健康 8) ミネラルと健康						
5	4. 水分と健康 5. 消化・吸収とエネルギー代謝						
6	6. 栄養ケアマネジメント 1) 栄養スクリーニング 2) 栄養アセスメント・ケア計画						

	3) 栄養モニタリング・評価		
7	7. ライフサイクルと栄養 各期における栄養摂取のポイント		
8	8. 臨床栄養 1) 病院食の意義と種類 2) 栄養補給法 (1) 経腸栄養法 (2) 経腸栄養剤の種類、合併症	講義	管理栄養士
9	3) 疾患別食事療法の実際 (1) 循環器疾患患者の食事療法		
10	(2) 胃・腸疾患患者の食事療法		
11	(3) 肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の食事療法		
12	(4) 栄養・代謝疾患患者の食事療法 (5) 腎疾患患者の食事療法		
13	(6) 血液疾患患者の食事療法 (7) 骨粗鬆症患者の食事療法		
14	(8) 摂食・嚥下障害患者の食事療法		
14	9. NST の活動と意義		
15	10. 静脈栄養法 1) 静脈栄養法の適応と種類 2) 静脈栄養剤の種類 3) 静脈栄養の合併症	講義	薬剤師
	終講試験	試験 (評価)	単位認定者 飛奈 卓郎

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	地域保健論 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義	開講 時期	1 年 前期	
講師名 所属	院外講師 保健福祉事務所 保健監 蒲原 知愛子 元 嬉野市保健師 助産師 院外講師 保健福祉事務所 保健師 院外講師 保健福祉事務所 保健師							
授業概要	1. 健康の保持増進、疾病予防としてのヘルスケアシステムについて、現在の疾病構造の変化や在宅療養の動向踏まえた制度を学ぶ。 2. 公衆衛生、保健統計より現代社会の健康問題の動向や課題を学ぶ。 3. 現在のヘルスケアシステムに基づいた地域保健活動の実際と学校保健、産業保健について学ぶ。							
科目目標	1. 健康の保持増進、疾病予防としてのヘルスケアについて理解できる 2. 健康指標の統計情報を読み取り、現代社会の健康問題の動向や課題を理解できる 3. 現在の疾病構造の変化や在宅療養を踏まえた制度とそれに基づく地域保健活動の実際について理解できる							
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院							
参考文献	1. 健康支援と社会保障 公衆衛生 ナーシンググラフィカ 2. 国民衛生の動向							
評価方法	筆記試験（別紙評価計画参照）							
	筆記	○	レポート		口頭試問		授業態度・出席状況	○
学修に向けたメッセージ	専門分野ではライフサイクルに応じた健康の保持・増進、疾病の予防の具体的内容を学ぶ。地域保健論で学んだ基礎知識を想起し学習できるよう努めてほしい。							
授業計画								
回数	講義内容			教授・学習方法		担当講師		
1	1. 地域保健の概念と変遷			講義		保健福祉事務所 保健監		
2	2. 現在の公衆衛生システムと政策			講義		保健福祉事務所 保健監		
3	3. 地域保健と保健統計 4. 健康と生活環境			講義		保健福祉事務所 保健監		
4	5. 地域保健活動への取り組みの基本的考え 1) 地域における保健活動 (1) 母子保健 (2) 歯科保健			講義		保健師 助産師 蒲原 知愛子		
5	(3) 成人保健 (4) 高齢者保健			講義		保健師		

6	(5)精神保健 (6)障害者・難病保健 (7)災害保健	講義	保健師
7	2)健康障害に対する保健活動 (1)感染症	講義	保健師
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者

分野	専門基礎分野	科目名 単位（時間）	医療倫理 1 単位（15 時間）	授業 形態	講義 演習	開講 時期	1 年 後期
講師名 所属	力武 一久 嬉野医療センター 病院長 医師 山本 真由美 嬉野医療センター附属看護学校 教育主事						
授業概要	人間の行動の規範である内的規範、外的規範、フライの倫理原則について理解したうえで、看護者の責任を自覚し、看護者の倫理的判断にもとづく行動の重要性を学ぶ。ICN、日本看護協会の倫理綱領より、看護が引き受ける責任の範囲を明確にし、看護者が自己の実践を振り返る際の基盤となることを学ぶ。また、患者の尊厳、権利擁護、守秘義務、安全確保など具体的な場面や事例を通して考えることにより、学生のうちから、対象となる患者・家族の立場に立ち、倫理的判断にもとづく行動ができるようになることをねらいとする。 本講義内容は、3年次の解剖見学の機会において「医の倫理」について再度熟考する。						
科目目標	1. 倫理学の基本的な考え方を学び、倫理的にものを考えるとはどういうことかを理解する 2. 生命に関する倫理的問題について理解し、対処する思考力を身につける 3. 人の健康にかかわる職業につく者としての倫理的諸問題に対処する思考力を養う						
テキスト	1. 系統別看護講座 専門分野 基礎看護学 [1] 看護学概論 医学書院 2. 系統別看護講座 別巻 看護倫理 医学書院						
参考文献	1. 小西恵美子：看護倫理 南江堂 2017 2. プチナース特別編集 東京医科大学看護専門学校：やさしい看護者の倫理綱領 照林社 2006 3. 日本看護協会監修：看護職の基本的責務 日本看護協会出版会 2021 4. 吉田みつ子：看護倫理 見ているものが違うから起こること 医学書院 2013 5. 坪倉繁美：具体的なジレンマらみた看護倫理の基本 医学芸術社 6. 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド サラ T・フライ他 日本看護協会出版会 7. 宮坂道夫：医療倫理学の方法 原則・手順・ナラティブ 医学書院 2011 8. ビクトル.E. フランクル「夜と霧」 みすず書房						
評価方法	詳細は別紙「評価計画」参照						
	筆記	○	レポート	○	口頭試問		授業態度・出席状況
学修に向けたメッセージ	医療倫理での講義・演習をとおり、考える続けることの意味や必要性を感じてもらいたい。						
授業計画							
回数	講義内容				教授・学習方法		担当講師
1	1. 倫理の基礎 1) 倫理とは 2) 価値と規範 3) 倫理と道徳 4) 倫理と法律の違い 5) 職業と倫理 2. 看護倫理の基礎 1) 看護倫理とは、その歴史的推移 2) 看護倫理の必要性 3) ナースの価値観 ナイチンゲール誓詞				講義		教育主事 山本 真由美

2	<p>3. 医療における倫理的問題</p> <p>1) 生命倫理</p> <p>4. 医療に関する倫理・規範の歴史的概観</p> <p>1) ヒポクラテスの誓い 2) ニュルンベルグ綱領</p> <p>3) ジュネーブ宣言 4) ヘルシンキ宣言</p>	講義	病院長 医師 力武 一久
3	<p>5. 医療における倫理的問題</p> <p>1) 先端医療と倫理 2) 遺伝子治療と倫理</p> <p>3) 人生の最終段階の医療と倫理</p> <p>6. インフォームド・コンセント</p>	講義	病院長 医師 力武 一久
4	<p>7. 看護職の責任</p> <p>1) 法的責任 2) 倫理的責任</p> <p>8. 看護情報と守秘義務</p> <p>1) ナースに課せられた守秘義務</p> <p>2) 医療現場における守秘義務とその要件</p> <p>9. 倫理綱領</p> <p>1) 国際看護師協会(ICN)「看護師の倫理綱領」</p> <p>2) 日本看護協会「看護者の倫理綱領」</p>	講義	教育主事 山本 真由美
5	<p>10. 徳の倫理 「よい看護」について</p> <p>11. 原則の倫理 フライの倫理原則</p> <p>12. 看護倫理に関する概念</p> <p>1) コンパッション 2) ケアリング</p> <p>3) アドボカシー 4) 権利擁護</p>	講義	教育主事 山本 真由美
6	<p>13. 看護倫理・倫理的ジレンマ</p> <p>1) ジョンセン4分割表を用いた事例分析</p>	講義・演習	教育主事 山本 真由美
7	<p>13. 看護倫理・倫理的ジレンマ</p> <p>2) 臨床における倫理的問題の検討</p>	講義・演習	教育主事 山本 真由美
8	終講試験	試験（評価）	単位認定者 山本 真由美